

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム浜岡の家
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	御前崎市池新田2104-1
記入者名 (管理者)	栗林時枝
記入日	平成 19年 6月 8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中に積極的に出かけ、地域の人達とのふれ合いを大切にしていきながら、地域の中で共に生活しているという気持ちをもつ。</p>	○	<p>地域の中で生活していく為に、職員の意識を高めていく取り組みが必要である。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティング等で、職員に意識づけるようにしているが、まだまだ浸透できていない。</p>	○	<p>頭ではわかっているようだが実践が伴わないため、今後も理念の共有をその都度確認しあっていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>いろいろな機会を利用し、説明しているが、抽象的になってしまい、具体的かつわかりやすい説明ができていないか疑問である。</p>	○	<p>今後も理解してもらえよう努力していきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に声をかけ合ったり、ホームの行事等には声をかけ参加等をうながしている。</p>	○	<p>隣近所の人達とはいろいろな面で協力していただく事が多いので、今後も付き合いを密にする努力をしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>お祭り、地域の行事等に率先して参加し、地域との交流を大切にしている。</p>	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今後の課題である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解していただくよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の準備をしている。近いうちに開催したい。	○	運営推進会議の定期的実施の取り組みを心がけ、その中で意見交換をしながらサービス向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今後の課題である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今後学習していく必要があるので、少しずつ機会をもうけていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活の中でお互い気をつけ意志統一はしているが、言葉による虐待が無意識のうちに出ている事もあるので、職員全員で気をつけるよう意志統一しているが今後の課題である。	○	職員に虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、防止に努めるよう今後も引き続き取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を説明し、家族の同意を得るよう心がけているが、具体的な説明ができていないか、理解・納得ができていないか疑問である。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の声に耳を傾け、利用者も言いたいことを言ってくれる雰囲気づくりに心がけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	そのつど、家族への報告をするようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応をそのつど受け、運営に反映している。	○ 今後も家族等のどんな小さな意見でも耳を傾け運営に反映させていくよう努力していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に2回程度のミーティング等の時に、職員の意見・提案を聞く機会を設けているので、その場で意見を聞き反映させている。	○ みんなの意見を言える場を多く作り、より良い方向に反映させていくように取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員不足の為調整ができない。 今後の課題である。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は必要最小限にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会等あれば案内をホーム内に回し、参加を募っている。一緒に介護に入り、利用者との関わり方や、個人のポイントなどを指導している。	○ 近隣の施設と共に一緒に研修する機会を多く作り、地域の介護の意識を近づけていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、地域の防災ネットワークに参加している。	○ ホームとしての意識の統一ができるように、ミーティングに参加し、方向を示したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職務中は休憩を取りにくいのが現状。現在、各フロアごと検討中。 職員の悩み、質問等を聞けるよう、管理者は職員とのコミュニケーションを取っている。	職場を離れ、完全に休める休憩を取れるようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ミーティング等に参加し、目的意識を持って介護ができるよう、声かけをしている。	○ 職員同士の介護感の違いから生じる不満の解消。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接の際、本人、家族より聞き取りを行っているが、必要な情報を全て聞き取るまでには至っていない。	○ 本人からの聞き取りが困難な場合が多いので、家族とホームにてゆっくり聞き取りが出来る場を設ける予定。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族もグループホームを理解している場合が少ないので、ホームの説明等から入っている。 面会時に最近の様子、今後のケアの方針について職員の方から声かけを行い、意見を求めている。	○ 家族の方が、意見を言いやすい雰囲気作り、関係作りに努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には、本人の情報が細かくつかめていないので、大まかなプランを立て、2週間程度で見直し、再度本格的なプラン作りを行っている。		早期の情報収集に力を入れていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態に合わせて、できる生活上の作業を一緒に行っている。	○	本人の趣味などを生活に反映させ、QOLの向上に勤めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活上の作業や行事を一緒に行い、本人が得意な部分は、職員が教えてもらう姿勢で関わっている。	○	利用者のその日その時の状態に応じた臨機応変な関わり方ができるよう、職員の意識を上げていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの方で一方的に決定してしまわないよう、体調の変化や本人の希望等あれば、家族と相談し決定している。		家族に誤解されないよう、負担にならないよう、気をつけて連携を図りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係が悪い場合は、職員が間を取り持って、関係修復できるよう支援している。		お互いの気持ちの橋渡し役として、十分配慮して支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話に馴染みの人や場所を取り入れたり、ドライブや散歩等で馴染みの場所へ行ったりしている。	○	地域との関係も豊かになるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話が生まれるような話題を提供している。		他ユニットとの利用者同士の交流も深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院や他施設への面会は、職員個人の判断で行っている。		ホームでのイベントの案内等を送ってみるかを検討中。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、個別ケアを各ユニットとも、試行錯誤中。	○	共同生活の中での充実した個人の生活を提供できるよう努力したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話中、ひっかかる言葉やしぐさ等が出れば書きとめ、申し送りやミーティング等で職員共有の情報としている。	○	本人から出た言葉等、家族にも確認を取り、確かな情報として職員で共有して介護に生かしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ユニット各の生活の流れはできてきている。その中に個人の趣味やできる事を組み入れているが、全員までは至っていない。	○	一日の流れの中で、全員が個人の力を生かした生活が送れるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が仮作成したプランをユニット職員全員で見直し、家族の意見、承認をもらい、プランを決定している。	○	身体介護面よりも生活面が全面に出てくるプラン作りに努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、継続、変更を決定している。入院し、退院後に大きな変化があればプランを変更している。	○	普段よりプランを意識して介護にあたり、より正確なモニタリングが行えるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録 排泄記録 業務日誌 個人記録	○	個人記録への記入を増やし、ケアにいかしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員による定期的な訪問は実施している。他の機関との協力等準備中である。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者、家族の要望等を聞きながら、関係機関との連絡・連携を深めている。	○	引き続き関係機関等との連絡・連携を深めていく必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	施設責任者・フロア責任者によって準備している段階である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・職員・医療機関の三者間での情報交換・指示説明を積極的に行っている。	○	医師からの指示及び注意事項を職員間に伝え、情報を共有している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療ドクター、精神科医への受診時や、入居者の心身の状態の変化・異変時には速やかな連絡・連携が行われている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は不在である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中、施設責任者・フロア責任者が定期的に病院関係者との情報交換を行いながら、職員間の話し合う準備をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設責任者・フロア責任者・職員・家族による連携・情報交換を深める為のミーティングが開催されている(月1回)		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームとしての支援体制等準備中である。	○	体調急変時の緊急対応や手当てについての研修の必要性がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	行っていない。	○	職員・家族間での情報交換を職員全員が共有する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として接するさりげない介助を心掛け、礼儀を持って接する。個人情報の守秘義務、取扱いの徹底を計る。	○ 研修等により個々のレベルアップを計る。個人情報記録簿の作成(移動、開示等)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりする場面、選択肢を出来る限り日常の中に取り入れる(食事、行動、判断など)	希望や自己決定が速やかにわかる職員の判断・行動
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望を尊重し、自由に自分のスペースを保ちながら暮らせるよう支えていく。	より各自のペースに合った日課作り
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個性を大切にした自由な服装選び、又、買い物による購入。馴染みの理容・美容院の利用。	出来るだけ、いきなれている理容・美容院に、出かけられるようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒にし、一緒に準備や片付けを行っている。又、畑で野菜を育て囑託に利用している。各自の希望や要望を聴き食材を購入しに出かけたり、外食に出かけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望により、晩酌を楽しんだり、酒のつまみを購入しに出かけている。又、好みのおやつ作りや購入に出かけている。	季節や行事に合わせたおやつ作りを一緒に心がけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	不快感を感じない排泄の誘導、介助を心掛け、記録表を利用した声かけのタイミングや誘導を計っている。表による排泄状況の確認をしている。	○	より各自の排泄パターン2を割り出し、失敗やおむつ等の使用の軽減をはかりたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ各自の希望にそった回数、長さでしている。		時間等に幅を持たせるような入浴を行いたい(就寝前、朝風呂等) 時々行って入るが・・・。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各自、自由な就寝時間を実施しているが、睡眠のパターン、日中の行動等を把握した安眠作りを心掛けている。 又、緊張や疲労の程度に応じて一服や昼寝の場面を設けている。		和室(畳)コーナーの設置
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の趣味や出来ることを把握し、場面に応じて食事の準備、片付け、掃除等の役割の支援を行っている。 又、買い物、散歩に出かけている。 畑仕事、盆栽、飼育等、趣味を生かし働きかけを行っている。	○	今後も積極的に外出や買い物を取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自、個人の財布を用意しており、買い物の際、入居者に持っていていただき、支払をしていただいたり、職員と一緒に支払ったりして、お金を持つことや使うこと等、お金の大切さを知っていただいている。		個別の外出、買い物に使うお金の使用。 価値を学んでいただく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外は毎日外気浴を楽しみ、積極的に買い物やドライブに出かけている。 又、地域の行事等にも積極的に参加したり、見学している。	○	玄関をフリーにし、自由に庭に出していただき外気浴、四季の移り変わりを肌で、感じていただくようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者や家族と相談・協力して、慣れ親しんだ場所や知人への訪問を行っている。 又、ホームで計画を立て、花見や果実収穫に出かけている。		皆さんでの泊まりこみの旅行等の計画をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者のプライバシーに配慮し、自由に入居者の要望に応じて家族や知人に電話の利用や手紙のやり取りを支援している。 (外泊等を己から家族に伝えている)	○	各自の様子を定期的に家族に自身の形で「○○通信」のような形で送りたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも自由に気軽に訪問できるよう心掛けている。 又、訪問の少ない入居者に対してはこちらから定期的に働きかけている。		家族に泊まっていただき、よりホームの生活状況や状態を知っていただく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は常日頃、いかなる状態にあっても身体拘束の禁止を周知徹底で入居者に接している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、入居者が自由に入出りできるよう玄関は常にオープンにしてある。又、その他鍵のかかる場所においても一切オープンにしてある。 夜間、玄関のみ、車の往来もあり鍵をかけている。	○	近隣住民への理解と協力
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを配慮しつつ、一人ひとりの位置と様子を把握し、入居者を見守りやすい場所、行動を心掛けている。 (記録、調理、掃除等)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(薬、洗剤、刃物等)については、決められた場所、目に付かない場所に保管している。 特に夜間帯は物品等のチェックを行っている。		危険物品の記録簿
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の身体状況を把握し、引継ぎ等により、転倒、窒息等の事故防止に努めている。又、研修等により個々の介助技術のレベルアップを計っている。 毎月避難訓練を実施、対応や対策のより効率化をはかっている。	○	研修、講習等による職員のレベルアップ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成、掲示し、速やかに対応できる方法を心掛けている。		マニュアル表の掲示。 応急手当での講習会や研修への参加。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を行い、又、消防署等周辺機関の協力を得て実施研修を行っている。 職員連絡網により速やかに伝達を行う。	○	近隣住所への理解と協力
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常日頃、面会の折、家族へ身体状況の報告、説明を行っている。又、家族の意向をお伺いしている。	○	面会の少ない家族への定期的な報告
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックの確認、排泄、食事等により、一人ひとりの変化や異常等に心掛けている。又、変化等がある場合、記録、引継ぎ等で周知徹底を計っている。		バイタル平均値の表の掲示。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり使用している薬の説明書をいただき、目的、副作用等の理解を深めている。 又、参考資料にて学習している。 服薬による変化や症状を医師に報告している。		極力、眠剤に頼らない方向。 医院への相談と連絡。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄、水分表を元に、飲食物の工夫や排泄誘導運動への働きかけ等を行っている。		水分量のチェック。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日歯磨き、義歯の手入れを行い、就寝時義歯については消毒を行っている。 うがいを積極的に働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供先よりカロリーの情報を元に摂取量、栄養バランスを把握している。 又、水分表により個々の摂取量をチェックしている。	水分量1日1300cc～1500ccを目安に個人チェック。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの励行を元に、消毒液の設置を行い予防に努めている。 又、インフルエンザ予防接種は常に受けている。	感染予防の対処、学習を定期的に行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具等については速やかに洗浄、消毒、漂白を行っている。	納品(購入)商品への期限書き込み。 職員の検食。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外の玄関周りにはベンチや利用者の植えた花などを置き、明るく誰でもリラックスできるような環境を維持している。また、各階の玄関には金魚を飼っている水槽が置いてあり、世話が利用者の楽しみになっている。	○ 常に清潔を保ち、近隣の人たちや面会者に悪いイメージを持たれないように努力したい。 また、車の出入りがあるので、利用者の安全が確保できるような工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階食堂に温湿度計を置き、常に温度、湿気をコントロールしている。また、季節感を取り入れた掲示物や、外出した際の写真などを目に付く所に掲示し、利用者の話題や興味をそそるように心掛けている。	○ 職員による食事の仕度や皿洗いの際の音など、利用者によってはストレスを感じる恐れがあるため極力抑えるように徹底していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階玄関や食堂にソファが置いてあり、各利用者仲のいい人同士でくつろげるスペースを確保している。また、1階の玄関のすぐそばにベンチが置いてあり、外気浴をしながらくつろげるようにしている。	○ 共同空間の中には、常に他利用者がいて独りになれるスペースが足りないのが現状。独りになれるスペース＝自分の部屋にならないように、これから職員間で話し合い取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中には、入居の際自宅よりテレビや裁縫道具、今まで自分が使っていたダンス、カーペットなど馴染みの物や、運動の道具などを持ち込んでいる利用者もいる。	○	入居の際には、自宅で使っていた物、馴染みのある物などを持ってきてもらえるよう家族の方に説明しているが、半分ぐらいしか実施できていないのが現状。よく家族の方に理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	キッチンの換気扇や空調、窓を開けての換気など空気によどみがないように気をつけている。またトイレやにおいの気になる利用者の居室は芳香剤で対応している。また、エアコンやホールの空調は24時間体制で管理している。	○	ホール等では、事務所にあるリモコンで温度コントロールしているが、利用者によって適温は異なるので、利用者の状況を見てすぐに対応できるように努力したい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットからの起き上がりガーンでは難しい利用者には手すりを設置したり、ベットから落下する危険のある利用者にはベットから布団に変更したりと安全に過ごせるようにしている。	○	利用者の状況を見て、手すりやベッドの高さを変えたりと柔軟に対応していきたい。また安全を確保するためにも利用者の負担にならない程度の見守りや付き添いは今後も続けていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレがわかりやすいように張り紙をしたり、各居室に本人の写真を掲示したりと、混乱やトラブルがないようにしている。また、イベントやポスターなどを目に付くように掲示するようにしている。	○	利用者の理解力を職員同士がしっかりと把握し、一人一人事細かく対応できるようにし、最終的には各利用者が自立して生活できるようにしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関外の花壇では、利用者が好きな花や季節の花を植え、その世話が利用者の楽しみになっている。また、裏の畑では、在宅時に百姓をやっていた利用者が、野菜を植えたり畑を耕したりと、こちらも生きがいになっている。	○	決まった利用者だけでなく、他の花や畑に興味がある利用者も楽しめるようにスペースの確保や畑や花に詳しい利用者の協力が受けられるよう体制にしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・鍵をしないこと
- ・入居者と職員と一緒にゆったりとその人らしいペースで生活をしていただけるような援助や手助け、声かけなど気をつけている。